

伊日財団10周年を迎えた折、ご挨拶のメッセージをお送りできることをとても光榮に存じます。

イタリアと日本両政府の関係を深めて発展させるため、伊日財団の寛大なオーガナイズにより、日本の地において我が国のプロモーションやイメージの確立を図るためのイベント「日本におけるイタリア年 2001-2002年」の終了を機に途切れてしまったわけではなく、現在も続けられています。実際、官民の分野を網羅した組織作りのおかげで、伊日財団は日本側と効果的な接点となることができ、注意深く敏感な日本人々が我が国について既に持っているイメージ、つまりとても好意的なイメージを確立させるための重要なイタリアのシステムに対して特筆すべき貢献を与え続けています。

アネッリ氏の没後、伊日財団が協力し行われた、優れた側面を持つ数々の企画の中には2005年愛知世界万博や、同じく2005年に東京ドームで行われ、イタリアの様々な州の特産物や伝統を日本人々に紹介した文化商業的性格の大イベントであった「イタリア・フェスティバル」、そして女性の理想的な美しさを象徴する女神の伝説を回想させるティツィアーノの傑作や中世からルネッサンス期までのイタリア美術における重要な他作品が出品された2008年のウルビーノのヴィーナスの素晴らしい展示会があります。

そこで、両国の絆を強め活発にした活動をこの10年に渡り行い、実りある貢献をされた会長、そして全ての伊日財団の皆様へ私の感謝の気持ちを表明させていただきたいと存じます。

在日本イタリア大使

ヴァンチェンツォ・ペトローネ